

大スリバチ沢(仮称)

一九八三年七月一〇日

座頭沢の源頭から尾根を越えて大

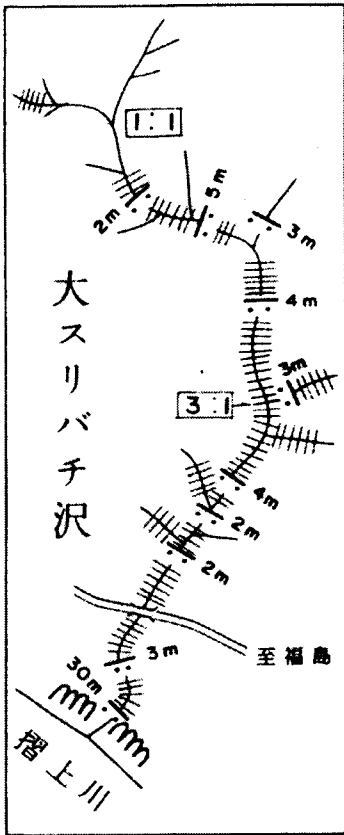
スリバチ沢(仮称)に降りる。しばらくは細い平凡な沢が続く。たいして期待もせず下ってゆくと、次第に沢幅が広がり、ナメが始まった。

私はナメの連続する明るい沢は大好きである。美しいナメを快適な足取りで下ってゆくと、初めに二箇、

しばらくして五箇のナメ滝がある。

この滝の中央を下りながら記念写真を一枚撮ってもらおう。この先も小さなナメ滝がところどころにあり、小さいながら深い釜をもっている。

一二時三五分、左から二箇の滝をもったナメ沢が注ぐ。この沢は支沢も含めて全体がナメ沢となっている



ようだ。ミズナを探りながらナメと小さなトロの連続をリズムカルに下る。
一三時〇五分、
国道三九九号線



大スリバチ沢にて

の暗渠をくぐりぬけて、その下を見にゆく。三箇の滝を下って五分も進むと、アツと驚くド迫力で沢はすっぱり切れ落ちていく。落差はゆうに三〇匹はあるだろう。深い摺上川の川床を眺めて、また国道に戻る。連続する美しいナメが、最後に突然大滝となってふりそそぐ楽しい沢だった。
(記・ト)

「タイム」下降開始(一一:四五)↓
国道(一二:〇五)